



人権と平和は  
21 世紀のキーワード

〒720-0061 福山市丸之内 1-1-1  
TEL 924-6789 FAX 924-6850

[jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp](mailto:jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp)

## 2015 年度（平成 27 年度）第 1 回企画展 ユニセフ写真展 「わたしも学校に行きたい」 4 月 15 日（水）～5 月 31 日（日）

協力：広島県ユニセフ協会



### 【すべての子どもに教育を】

教育を受ける権利は基本的人権であり、質の高い教育は、個人及び社会全体の発展のために必要不可欠です。

1999 年当時、1 億 800 万人の子どもたちが小学校に通っておらず、そのうち 3 分の 2 が女の子でした。状況は改善されているものの、2011 年度では、いまだ 5,700 万人が小学校にすら通っていません。

また、紛争などの緊急事態が子どもたちの教育の大きな壁となっており、小学校に通っていない子どもの半数（約 2,850 万人）は紛争の影響を受ける地域で暮らしています。

（「2014 ユニセフ子ども白書」より）

### 企画展関連事業

入場無料

## 講演 「インド『聖ザビエル学園』の 教育支援について」

日時：4 月 26 日（日）13：30～

場所：福山市人権平和資料館 2 階研修室

講師：NPO 法人「聖ザビエル学園を支援する会」

理事長 **ロナルド・クライン** さん

※ 講演は英語で行いますが、通訳があります。

《講師プロフィール》

元広島女学院大学教授。クラインさんは、15 年前、インド旅行中に偶然「聖ザビエル学園」の園長と出会い、それを機に支援に乗り出している。同学園では、2～17 歳の子ども約 100 人が学び、暮らしている。今後、寮や校庭、家畜小屋、菜園などを整備する計画。



Dr. Ronald Klein

入場無料

企画展「わたしも学校に行きたい」関連事業

# 映画「世界の果ての通学路」上映

(アンリ・ラングロワ賞 2014 ドキュメンタリー賞受賞, セザール賞 2014 ドキュメンタリー賞受賞)



と き : 4月19日(日)

1回目 : 10:00~(77分)

2回目 : 13:30~(77分)

ところ : 福山市人権平和資料館2F

あなたは信じられますか。毎日往復 30 kmの通学路を、たった4時間で駆け抜ける兄妹がいることを。見渡す限り人のいないパタゴニア平原を馬に乗って通学する兄妹がいることを。

野生のキリンや象が生息するサバンナを駆け抜けるケニアのジャクソン。山羊飼いの仕事を終えてから愛馬で学校へ向かうアルゼンチンのカルロス。女子に教育は不要とする古い習慣が残る村から、寄宿学校に通うモロッコのザヒラ。生まれつき足が不自由で、弟たちに車いすを押されて登校するインドのサミュエル。通学路は危険だらけで、大人の足でも過酷な道のりだ。それでも子どもたちは学校へまっしぐらに通う。

どうして彼らはそんなに苦勞してまで学校に行くのだろうか？



別の大陸、違う言語、宗教、生活環境の中で暮らす4人の子どもたちは、真っ直ぐな瞳で同じ思いを語る。

「夢をかなえたいから」

世界の果ての通学路から、希望に満ちた地球の今と未来が見えてくる。



《マララ・ユスフザイさんノーベル平和賞受賞演説抜粋》

「強い」といわれる国々は、戦争を起こすうえでは非常に強いのに、なぜ平和をもたらすうえではあまりに弱いのか。銃を渡すことはとても簡単なのに、なぜ本を与えるのはそれほど大変なのか。戦車を造るのは極めて易しいのに、なぜ学校を建てるのはそんなに難しいのか。

空っぽの教室、失われた子ども時代、生かされなかった可能性。これらを私たちが終わりにしましょう。少年や少女が子ども時代を工場で過ごすのをもう終わりにしましょう。少女が児童婚を強いられるのは、もう終わりにしましょう。純真な子どもが戦争で命を落とすのは、もう終わりにしましょう。教育は権利ではなく犯罪だと言われるのは、もう終わりにしましょう。子どもが学校に行けない状況は、もう終わりにしましょう。終わりにすることを始めましょう。



マララ・ユスフザイさん

国連で昨年お話ししたとおり、「1人の子ども、1人の教師、1本のペン、そして1冊の本が世界を変えられるのです。」